

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全員が見ることが出来るように、事務所内に掲示してある。利用者様、ご家族、職員、外部の方々に信頼されるよう日々邁進している。	社会福祉法人で統一している理念を大切に職員は利用者家族と共有した、ほっとした生活の暖かいグループホーム理念が全職員に徹底され実践されていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流が少なくなって来てはいるが、関連施設等の行事に参加し地域交流に努めている。	地域担当者会議等により農業祭、納涼祭、子供新興で賽銭を渡し又縁日の買物も大変喜ばれ、演芸観賞と多種の行事に参加し亦関連施設が開催する出し物にも積極的に加わり地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議で利用者様の様子や認知症介護の話をしてアドバイスも頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事報告、予定を伝えしている。	運営推進会議も軌道に乗りあらゆる方面で取り組み活かされています。ホームの報告はもとより、行政による制度説明、介護技術説明など要望、意見を共有したサービス向上に目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する研修会や、市職員に講師を依頼したGH職員勉強会に積極的に参加している。	日頃から積極的に連絡をしている。津山市職員講師による身体拘束等の勉強会も実施、亦津山市による研修会が現場職員が多数受講参加出来る時間帯夕方依頼意見、要望をお願いしていると窺いました。	グループホーム全ての事業所レベルアップに向け多数受講できる時間帯依頼の意見、要望を積極的に取り組んで欲しい。(ほつとするね、みすずをたずねてみませんか)
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、玄関の施錠は夜間のみとしている。出来る限り利用者様の気持ちを理解し対応するよう心掛けている。	利用者、家族、医師、介護職員と検討に検討し事前に行動制限の根拠と内容、見込まれる期限について十分説明する。身体拘束は、しない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」の研修に取り組んでいる。職員間での「報連相」や声掛けをし利用者様のサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の気持ちを大切に思いながら、その気持ちに添った介護が出来るよう心掛けている。成年後見制度についても研修の機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に説明し同意を得ている。また契約内容に変更があった場合には速やかに連絡し、必要があれば同意の取り直しも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様は普段の会話の中から意見を聞かせて頂き、ご家族様は面会時や行事・地域推進会議等に参加して下さった時に意見を聞かせて頂くようにしている。また電話等でも意見を聞かせて頂けるよう心掛けている。	普段毎日の生活の中から、意見、要望を何時でもどこでも話して頂ける雰囲気作りに気を付け、行事、運営推進会議参加者、電話などで細かく配慮されている。(事例として家族から家族ストレスを聞きく事もあった。)	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、調整会議・職員会議を開き、介護業務についての意見や要望を聞き、実行するようにしている。	定期的に職員、調整会議が開催されまた2ユニット連絡会議、法人との合同会議あらゆるところで職員の意見、提案を取り上げ反映にいかされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、2回責任者と職員一人一人が面接する機会を設け、本人の気持ちや意向を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のレベルに合わせた外部研修に積極的に参加している。また年に4回内部研修を行い外部から講師をお招きし学ぶ機会を設け、レベルアップが図れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2回、他のグループホームを見学する機会を設け、また集まり等には出席しネットワーク作りに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様との会話を多く取るように気を付け、その中で本当の気持ちを聞けるようにして行きながら、本人様が安心して生活できる環境作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの生活の様子を連絡したり、また面会等に来て頂き、ご家族様の気持ちを聞くことによって良好な関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時の当サービスを利用することが適切であるかどうか検討させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る能力を活かして、食事の後片付け、洗濯物たたみ、新聞折り、壁飾り等をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や地域推進会議等を通じて面会の機会を増やすようにしている。また面会時には各居室にてゆっくり話をして頂けるように配慮したり、最近の状態を報告させて頂くことにより情報の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	市内のスーパーへ一緒に買い物に出掛けたり、ご家族様やご親戚等が面会に来られた際には、ゆっくり話をして頂けるように配慮している。	来訪者である家族、友人、近所の方全ての人に今迄の関係が崩れない様、部屋を用意したり、お茶出ししたりされています。デジカメ撮影、家族、親戚の希望により写真を焼き増しするなど、利用者の人生の思い出を大切にされていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しく過ごせたり、話が出るような環境作りに気を付け、より快適な生活を送って頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族様から相談を受けたり、ご本人様の様子を見に行くなどの支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中から利用者様の意向を汲み取るように努めている。またご家族様の面会時等にも話を傾聴し一人一人の思いや意向を大切にしている。	日常生活の活動、表情、会話の中、小さい事でも意向を汲み取、特に傾聴に気をつけている。待つ、見守る明るく穏やかに家庭的な雰囲気を楽しんで継続して頂き、家族、関係者の情報を大切に1人1人の意向、思いに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常的な会話の中やご家族様からの情報や在宅で生活していた際に担当していたケアマネージャー等に情報提供をして頂き、把握に努めている。また生活歴をまとめた書式を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況等は毎日記録したり、チェック表にて全職員が把握出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様には日常的な会話の中から、ご家族様には面会時や電話等で要望をお聞きしている。また利用者様一人一人の生活状況を職員が話し合い、それぞれの意見をまとめて介護計画に反映し作成している。	、利用者、家族、日頃の様子を知る介護職員の気づきや意見を幅広く聞き身体機能低下にならない気配り介護計画作成に取り組んでいる。〔本人の急激な悪化、多量のよだれ対応に検討結果服の袖でなくタオルの腕で抜き対応〕	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各記録、チェック表、申し送りノート、医療ノート、個人ノート等で情報を共有し、改善が必要であれば随時見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人一人の状態も日々変化しているため、その方に応じた対応方法を検討し実施するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供神輿ではお賽銭を渡したり、納涼祭には夕食として縁日の買い物をしたり、演芸を見たりして楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の往診の先生に、適切な治療が受けられるようご家族の思いなどを伝えている。受診の際職員が付き添えない場合は、ご家族に生活状況報告書を渡して、かかりつけ医に見て頂くようにしている。	協力医療機関、訪問看護事業所との連携により365日、24時間の連絡体制が取れている。7月には2名の終末期支援を実施され家族の信頼度も高く医療等連携なされいるのが窺えました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、訪問看護師に体調や思いを情報提供し、その結果でかかりつけ医に相談もできるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を書面、口頭で行っている。医療関係者とご家族との話し合いも積極的に参加し退院後のケアにつながるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化が予想される時は、利用者様ご家族の思いを聞き、かかりつけ医・訪問看護師とも連携を取って、ご本人にとってGHで安心して生活が送れるよう支援している。7月に看取りケアをさせて頂きました。	利用者の尊厳に十分配慮しながら終末期の介護について行うことと考えるのもと、医療体制、24時間の家族連絡、職員の精神的ホローされ、重度化や終末期に向けた支援を実践されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加したり、勉強会を行ったりして、職員の意識向上につながるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練・避難訓練は、GHと施設の両方に定期的に参加して“火事は出さない”と職員が日々気を付けている。10月には自動火災報知器・火災通報装置が設置された。	近隣防災協定を締結し非常どきの応援約束もしている。避難訓練も取り組んでいる。	災害対策訓練は実地されていますが、避難勧告想定訓練にをしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人生に尊敬の思いを持ち、利用者様1人1人に自尊心を傷付けない、声掛けや介護が出来るよう心掛けている。	利用者1人1人の自尊心を傷つけないように声掛け、ドアの開閉、1つ1つ基本的なところを一番大切にしたい細かい心配りが職員に浸透している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	美味しい物が食べたい希望の利用者様には喜んで頂けるよう、個別ケアとして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の思いを大切にしながら、天気の良い日はひなたぼっこが出来るよう声かけをし、四季の移り変わりを肌で感じたり、隣の棟に遊びに行ったり、交流を深めれるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出にはお気に入りの服や靴、帽子をご本人と一緒に用意し、外出を楽しめる雰囲気作りを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好や旬の食材を味わってもらえるようにメニューを伝えながら配膳している。ご飯の認知がづらい利用者様にはワンプレート皿で食べやすいよう支援している。食事の後片付けが出来る方は手伝って頂いている。	医療の指示を大切に状態に応じた調理方法をされていました。新鮮な野菜を農家の人が持って来てくれます。食事準備、配膳、下膳など負担、押し付けにならないよう役割が出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はチェック表に記入し好きな飲み物を飲んで頂くよう声かけしている。嚥下障害がある方にはトロミを付けたり食事形態を変えて、摂取して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕と3回食後口腔ケアを行っている。歯のない方は毎食後うがいしている方もいる。義歯も定期的に洗浄したり、入浴時にも口腔ケアが必要な方にも取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の状態・排泄パターンを把握した上で、おむつに頼らないよう時間を決めるなどしてトイレ誘導と声かけを行っている。	介護チェック表を活用されおむつに頼らない人間の尊重、虐待にならないよう言葉がけに気をつけ自立に向けた支援がされています。(誘導の声掛けの優しさが窺えました。)	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、食事には野菜を多く取り入れたりヨーグルトを朝食時つけるようにし、希望される方にはヤクルトをお出しする等して便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施している。入浴が苦手だったり拒否させる方には、入浴順番や時間にこだわらずその方のタイミングで入浴できるように見守り・声かけする等配慮している。	毎日の入浴は順番、時間変更、見守りなど工夫をした入浴の支援がなされていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態・生活習慣に応じて休憩して頂けるようにしており、コミュニケーションを取りながら安眠できる対応を心掛けている。寝具も自宅で使い慣れた毛布や電気あんかなどがある場合、持参して頂き使用して頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の個人ファイルに薬の説明書を綴じて全職員がいつでも見れるようにしている。利用者様の状態・症状に合わせた服薬管理をかかりつけ医や薬剤師と相談の上、行うような体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳み干し・畑仕事・花の水やり・買い物等、利用者様の好きなこと・得意なことをして頂き気分転換になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に合わせた買い物等の外出を行っている。個別ケアとして外食や自宅等の好きな場所へ行けるようにし、時にはご家族と共に外出することで利用者様個人個人との時間を大切に考え支援している。	母の日、父の日、遠足、様々な行事に利用者の希望に合わせた外出支援実施。笑顔の写真は喜びがあふれていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の要望される物を購入する際や施設の買い物の際、可能な方には購入時にお金の受け渡しをして頂くなどして現金のやりとりをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい時にはして頂くよう援助している。年賀状やご家族からの荷物のお礼状など、一緒に書いて頂いたり挿絵をお願いするようにしてご本人が楽しんで出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・ホール・玄関先・トイレに季節の花を飾って、季節感を感じて頂けるように努力している。季節に合わせた利用者様の手作り作品や写真を掲示し、安心して暮らせるよう努めている。	季節の花がさりげなく来訪者を迎えてくれました。生活感、季節感を採り入れて居心地よく過ごせる工夫がみられます。温度設定が自動的に音声で流れる工夫もされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先に椅子を置き団楽や日元浴ができるような場を設けている。仲の良い方同士はホールの椅子やソファ、居室に入るなどして話をされている。お一人でも居室やソファでゆっくり過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂く事を基本とし、ご家族にも協力して頂いている。	自宅から思い思いの使い慣れた好みに合った備品が家族協力により本人が居心地よく過ごせる部屋の工夫が窺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立している部分をご自分で出来るように見守りや声かけを行い、必要に応じて介助を行うようにして対応している。トイレや居室には場所や名前、目印を掲示し利用者様が理解できるよう心掛けている。		